



探究学習のヒント

常識に挑戦する あえて異なる指導をする 今までの考え方にとらわれない

おカネの正体は？ その2 —信用創造—

城西大学経営学部 特任教授
粕谷和生



登場人物



1. はじめに

118号では、おカネに対する二つの見方（貨幣観）を探究しました。一つは、物々交換の不便さを解消するために登場した商業用具（モノ）が貨幣であるとする見方。二つ目は、債務を記録した借用書が貨幣であるとする見方。前者の見方は商品貨幣観と呼ばれ、後者の見方は信用貨幣観と呼ばれます。今回は、この二つの貨幣観に基づいて「信用創造」について探究しましょう。

2. 商品貨幣観に基づく信用創造の仕組み

：それでは、2022年度の大学入学共通テスト「現代社会」の問題を使って信用創造の仕組みを考えてみましょう。

：僕たちが知っているおカネの見方は、二つありますが、どちらの見方を採用するのですか？

：実際に出题された問題は、商品貨幣観を前提に作問されていますから、まず、その立場で信用創造を考えてみましょう。実際の問題は、下のような図をもとに問題文が作られています。図中の番号①～

⑤は、対話をスムーズに進めるために私が付けたものです。

：どうやって図を見ればいいのですか？

：番号順に図を見ていってください。スタートは①の番号が付いている矢印です。

① D社は現金1,000万円をA銀行に預金した。

：このときD社は、1万円札を1,000枚もっていったのかな？かなりかさばるよね。

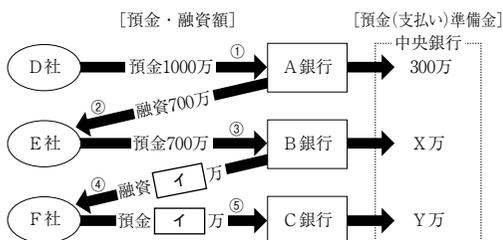
：そう考えた方がいいんじゃない。だって、僕たちは商品貨幣観の立場だから。

：そうだよね。商品貨幣観では、おカネを形のあるモノと見るから、現金紙幣というモノを銀行に預けたと考えた方が合っている。

：そうするとA銀行の金庫にはD社からの預金として1,000万円の現金紙幣が保管されます。この時A銀行における預金増加額は1,000万円です。次に図の②

② A銀行はD社から預かっている現金1,000万円のうち、300万円を準備金として中央銀行に預け、残りの現金700万円をE社に融資（貸出）した。

：実際の問題では、預金準備率30%（準備金300万円÷預金額1,000万円=0.3）を答えさせる問いがありますが、ここではスルーします。注意したいことは、預かった1,000万円のうち、準備金300万



円以外は、その全額を融資に回しているという点です。

 : 銀行は中央銀行に預ける準備金以外は必ず貸し出しに回すということですね。

 : 続いて図の③です。

③ E社は手元にある現金700万円全額をB銀行に預金した。

 : この取引によってB銀行の金庫にはE社から預かった現金700万円が保管されるから、B銀行における預金増加額は700万円になるわけですね。

 : ハイ、そのとおり。次は④の矢印です。

④ B銀行はE社から預かっている現金700万円のうち、210万円を準備金として中央銀行に預け、残りの現金490万円をF社に融資(貸出)した。

 : B銀行は預かった現金700万円から準備金210万円(=700万円×預金準備率30%)を差し引いた残りの全額490万円をF社に貸し出しています。

 : B銀行は先のA銀行と同じ行動をとっています。続いて⑤です。

⑤ F社は手元にある現金490万円全額をC銀行に預金した。

 : これまでと同じようにC銀行の金庫にはF社から預かった現金490万円が保管されます。これによって、C銀行における預金増加額は490万円になります。

 : この段階でA・B・C三つの銀行が受け入れた預金の増加額は、いくらですか？

 : A銀行が1,000万円、B銀行が700万円、C銀行が490万円で合計2,190万円です。

 : 問題文には次のように書かれています。「三つの銀行が受け入れた預金の増加額は、D社が最初に預け入れた1,000万円の倍以上に増えており、社会全体の通貨供給量が増えていることがわかる。」

 : D社がA銀行に預けた現金1,000万円は、融資と預金を繰り返すことによってC

銀行までくると預金額が2,190万円まで増加しているということですね。

 : それが信用創造ですか？でも、三つの銀行が預かっている預金は、銀行にとっては負債でしょ。銀行の負債が増えることが、どうして通貨供給量の増加になるのですか？

 : 預金は銀行(A・B・C銀行)にとっては負債なの？企業(D・E・F社)にとっては資産なのに。

 : 二人とも重要な点に気づいたようですね。普通預金や当座預金などの銀行預金は、企業側では資産だけど銀行側では負債です。ここから先は簿記を使って探究した方がよさそうですね。

 : 信用創造の探究に簿記を使うのですか？おもしろい。簿記は得意だし。

 : 企業側の銀行預金の勘定は、教科書に出てくる普通預金勘定を使います。

 : 銀行側の預金の勘定はどういう勘定になるのですか？

 : D社預金勘定・E社預金勘定・F社預金勘定にしましょう。銀行にとっては、すべて負債の勘定であることに注意してください。それでは図中の番号①～⑤の取引の仕訳を一緒にやってみましょう。

 : 次ページの銀行側の仕訳②④に出てくる日銀当座預金って何ですか？

 : 日銀当座預金というのは、問題文にある「中央銀行に預けた準備金」を処理する勘定です。わが国の場合、中央銀行は日本銀行ですから、市中銀行が日本銀行に預ける準備金は各行が日銀にもっている日銀当座預金口座に預けます。

 : この一連の仕訳を見てひらめきました。銀行にとって預金は負債(①③⑤の仕訳の貸方)なんだけど、その負債と同額の資産が企業側に普通預金として存在している。

 : そうか！企業側の普通預金は、取引先な

	企業側 (D・E・F社) の仕訳		銀行側 (A・B・C銀行) の仕訳	
①	(借) 普通預金 1,000	(貸) 現金 1,000	(借) 現金 1,000	(貸) D社預金 1,000
②	(借) 現金 700	(貸) 借入金 700	(借) 貸付金 700 日銀当座預金 300	(貸) 現金 1,000
③	(借) 普通預金 700	(貸) 現金 700	(借) 現金 700	(貸) E社預金 700
④	(借) 現金 490	(貸) 借入金 490	(借) 貸付金 490 日銀当座預金 210	(貸) 現金 700
⑤	(借) 普通預金 490	(貸) 現金 490	(借) 現金 490	(貸) F社預金 490

どへの支払いに使えるから通貨と同じ！



：銀行側の預金（負債）の増加 → 企業側の普通預金（資産）の同額増加 → 普通預金イコール通貨 → 通貨供給量の増加ということですね。



：それではここで、商品貨幣観に基づく信用創造の特徴を明らかにしましょう。



：特徴ですか？真っ先に頭に浮かぶのは、銀行がなかったら信用創造は起きない。



：そうだよな。銀行は預かった現金を企業に貸し出して、その企業はその現金を預金して、さらに銀行はその預金を貸し出しに回して…。



：信用創造は銀行の重要な役割ですね。でも、銀行がこの役割を果たすには欠かせないものがあるのですが、わかりますか？



：え～ わかりません。もしかしたら、D社の1,000万円ですか？



：そうか、D社が現金1,000万円を預金しなければ、信用創造は始まらないもんね。



：D社がA銀行に預けた現金を起点に、貸し出しと預金が繰り返されて全体の預金額が増えていったもんね。



：預金額が増えるということは、世の中に出回るおカネが増えるということだから、信用創造はおカネをつくり出す仕組みです。しかし、企業からの預金がなければ、銀行は貸し出し（融資）ができませんから、信用創造は起きません。



：ビジネス基礎の教科書にも「銀行の貸出資金の大部分は、預金業務で受け入れた資金によってまかなわれています。」と書いてあった。



：これまで信用創造ってイマイチピンとこ

なかったけど、これですっきりしました。



：信用貨幣観に基づく信用創造は探究しなくていいのですか？商品貨幣観の信用創造とは大きく異なりますよ。

3. 信用貨幣観に基づく信用創造の仕組み



：一番の違いは企業からの現金受入れがなくても、銀行は貸し出しを行い信用創造ができるという点です。



：おカネを貸すための手元資金がなければ、それは無理ですよ。



：118号で小麦の借用書がおカネとして流通する話がありました。そこでは負債があることを示せば、それがおカネになるというものでした。



：信用貨幣観では、信用創造に負債が関係するのですか？



：ハイ、銀行が預金という負債をつくって、おカネを生み出します。



：負債をつくとそれがおカネになる？



：商品貨幣観の信用創造では、D社がA銀行に現金1,000万円を預けたところからスタートしましたが、信用貨幣観では、その必要はありません。A銀行が自らの負債であるD社預金をつくり、それをD社に貸し出すと、即座に普通預金というおカネが生まれます。仕訳にすれば、すぐにわかります。



：A銀行の仕訳は
(借) 貸付金 1,000 (貸) D社預金 1,000



：D社の仕訳は
(借) 普通預金 1,000 (貸) 借入金 1,000

 :なるほど、A銀行とD社のどちらも負債を増やすと同時に資産も同額増えている。

 :でも、D社に対して普通預金1,000万円はどのようにして手渡すのですか？

 :普通預金は、モノではなく帳簿上の記録ですから、物理的に手渡すことはしません。D社の普通預金口座に1,000万円の入金の記事を行うだけで、D社の普通預金を増やすことができます。

 :信用貨幣観の信用創造の方が簡単ですね。

 :もう少し、深く掘り下げてみましょう。A銀行はD社からの借用書と引き換えに1,000万円を貸し出しますが、その借用書にそれだけの価値がありますか？

 :借用書は、ただの書類ですよ。

 :でも、1,000万円貸したということは借用書に1,000万円の価値を認めたんじゃない？

 :厳密には、借用書を書いたD社の「信用」を認めたのです。

 :ということは、D社の信用が低かったら貸出額はもっと低くなりますね。

 :逆に、D社の信用がもっと高かったら1,000万円よりも高額の貸し出しが、あったかもしれない。信用を獲得した借用書は、もはやおカネですね。

4. 信用創造の効果

 :次に信用創造の効果について見てみましょう。ただし、商品貨幣観に立った場合の効果です。

 :さっき見た現代社会の問題の後半に、預金準備率を30%から40%に引き上げた場合、社会全体の預金額が少なくなることから「準備率が低いほど信用創造の効果は大きくなるのがわかる。」と書いてありました。これは準備率によって信

用創造の効果をコントロールできるということですね。

 :そのとおりです。また、商品貨幣観は、企業から預かった現金を元手に貸し出すことを前提としているので、貸し出しに向かう現金が多ければ多いほど信用創造の効果は大きくなると考えられています。

 :それなら最初にD社が預ける現金をもっと多くすれば信用創造の規模も大きくなるということですね。

 :ハイ、ですから商品貨幣観を前提とする信用創造では、マネタリーベースとマネーストックは比例関係にあると考えられています。

5. まとめ

 :経済系の教科書のほとんどは、信用創造については、商品貨幣観を前提に書かれていますよね。

 :それはそうだよ。商品貨幣観はアダム・スミスの推しだもの。

 :だから大学入学共通テストの問題でも出題されるわけですね。でも、おもしろいことに同じ年度の政治・経済の問題は、信用貨幣観に基づく信用創造も出題されたんですよ。

 :2022年度の大学入学共通テストでは、現代社会と政治・経済で、それぞれ別々の貨幣観に基づく出題があったのですか？

 :ここに全国銀行協会が出している「10訂版図説わが国の銀行」があります。その20ページに「銀行が貸出を行う際は、貸出先企業Xに現金を交付するのではなく、Xの預金口座に貸出金相当額を入金記帳する。つまり、銀行の貸出の段階で預金は創造される仕組みである」と書いてあります。銀行の実務は信用貨幣観に基づいているようです。